新規検討対象物質に係る測定法提案一覧(７物質)

資料４－２

(※)濃度基準値が定まっていない場合には、ACGIH等で設定されているOELのうち最小のものを利用して検討を行う。濃度基準値が定まり、当該濃度基準値が検討に用いたOELと異なる場合には採用された測定法が当該濃度基準値に対しても適用可能か検証する。

分析法凡例
ICP-AES　(Induced Coupled Plasma Atomic Emission Spectroscopy)：誘導結合プラズマ発光分光分析方法

No.	CAS RN	**物質名称** 緑色：分析方法がICP-AES	①測定範囲 濃度基準値(※)の1/10及び２倍が測定範囲に入っていれば○ 不明確ならば△ データなしならばND	②抽出/脱着率または回収率 値が75%以上ならば○ 75%未満ならば△ データなしならばND	③保存安定性 値が90%以上ならば○ 90%未満ならば△ 50%程度ならば× データなしならばND	④破過 ○は濃度基準値(※)の2倍で破過の可能性なし △は濃度基準値(※)の2倍で破過の可能性あり データがなければND	測定方法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価 ○:OK(備考ありを含む) △:要確認（備考参照） P:検証や他の方法の探索が必要	総合評価の実用上の判断 ○ or P（○物質のみ表示）	備考
以下令和４～７年度の検討対象物質													
R7_70	1314-36-9	酸化イットリウム	○	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 240 min	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・高感度であるため、適宜希釈して分析する ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線は1/10から2倍の範囲を含むため、測定範囲は○とした。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。
R7_72	1330-43-4	四ホウ酸ナトリウム	○	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 15min及び240 min (30 L及び480 L)	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・短時間値も測定可能 ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない。 ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線は1/10から2倍の範囲を含むため、測定範囲は○とした。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。
R7_86	7488-55-3	硫酸第一スズ	△	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 240 min	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・高感度なので、適宜希釈して分析する ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線の範囲は1/10以下であったため、測定範囲は△とした。希釈率を下げることで測定可能である。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。
R7_107	7783-47-3	フッ化第一スズ	△	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 240 min	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・高感度なので、適宜希釈して分析する ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線の範囲は1/10以下であったため、測定範囲は△とした。希釈率を下げることで測定可能である。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。
R7_114	10043-35-3	ホウ酸	○	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 15min及び240 min (30 L及び480 L)	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・短時間値も測定可能 ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線の範囲は0.15倍～5倍であったため、測定範囲は△とした。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。

R7_136	13755-38-9	ペンタシアノニトロシル鉄(III)酸ナトリウム二水和物	○	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 240 min (480 L)	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線の範囲は1/10から2倍を含むため、測定範囲は○とした。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。
R7_141	15578-26-4	ピロリン酸第一スズ	△	△	ＮＤ	ＮＤ	ろ過捕集方法-ICP-AES	MCEメンブレンフィルター 2 L/min 240 min	王水（4 mL, 最終溶液25 mL） ホットプレート	ICP-AES	△	○	・高感度なので、適宜希釈して分析する ・安定な固体であるため、保存安定性と破過のデータは要しない ・添加回収試験においては通常濃度基準値の1/10から2倍の範囲で検証を行うが、対象物質は高濃度試料の溶解の方がより厳しい条件であることから、高濃度でも溶解して回収できるか検証を行い、十分に回収できることを確認した。 ・検量線は0.1倍～0.43倍の範囲であったため、測定範囲は△とした。希釈率を下げることで測定可能である。 ・以上のことから、総合評価は○と判断した。